

# 先進地事例調査研究

## 生活環境委員会

委員長 日域 究

令和4年11月8、9日

佐賀県佐賀市

11月8日

### 【障害福祉計画・障害児福祉計画】

佐賀市の佐賀地区における地域生活支援拠点は、佐賀市・神埼市・吉野ヶ里町の2市1町が共同で平成29年からスタートしている。3市町の共同となったのは、他の事業でも協力することが多く、また佐賀市には障害者福祉の社会資源が多くあり、普段から他市町からの利用も多かったことから、スムーズに連携できた。



佐賀市での研修風景

拠点の整備にあたっては、一、緊急時、相談対応するコーディネーターの配置 二、緊急的な短期入所に対応できる体制整備 三、365日対応できる体制づくりの3つを整備した。

今後の課題として、人材の不足がある。コーディネーターの確保や、人材面での不足が理由で空床の輪番制も難しくなっている。令和5年度から、他の加算単価を大幅に上乘せし、事業所で協力体制が取れるようにする。また、医療的ケアが必要な障害者への対応もこれから。

### 福岡県大木町

11月9日

### 【循環センターくるるん】

大木町は土地の高低差が数メートルしかない佐賀平野の中の面積わずか18km<sup>2</sup>の自治体。平成の合併もしていない。「ミ処理は近隣自治体に委託し焼却処理し、公共下水はなく、尿処理は海洋投棄だった。

その海洋投棄が平成19年2月に禁止されることになり、大学の研究者の知恵を借りて作ったのがこの「くるるん」。生ゴミ・尿・浄化槽汚泥をまとめて発酵させバイオマス資源化するもの。出来た液肥は契約農家の農地に町自ら散布する。



循環センターくるるん視察の様子

し尿の海洋投棄から環境第一に一気に大転換し、生ゴミ収集も家庭用ポリバケツから、10軒程度の家庭が出す街角の大型バケツへ、それを町のトラックが回収する方式。農業のスタイルが米と麦の二毛作地帯なので、半年間分の生産した液肥を溜める大きなタンクがあり、作物の入れ替わり時期に一気に撒く。農家の負担は散布費用のみで肥料は無料。

また、その処理プラントがある場所が町の中心で、道の駅が隣接している。その中のレストランでわれわれ一行も昼食をとった。嫌われ者の廃棄物処理を町の中心に据え人気スポットになっている。この発想には脱帽です。

## 議会を

## 傍聴しませんが

市議会では、予算や条例をはじめ行政に対する一般質問など、住民みよいまちづくりをめざして審議をしています。

本会議、委員会とも傍聴できませんので、議会がどのように運営されているのか傍聴してみませんか。



### 3月議会日程(予定)

本会議	2月27日(月)
常任委員会	2月27日(月)
//	3月1日(水)
特別委員会	3月2日(木)
本会議	3月7日(火)
// (予備日)	3月9日(木)
予算特別委員会	3月13日(月)
// (予備日)	3月15日(水)
// (予備日)	3月16日(木)
本会議	3月24日(金)